

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495500480	事業の開始年月日	2018年4月1日		
		指 定 年 月 日	2018年4月1日		
法人名	コスモスケア株式会社				
事業所名	グループホームコスモス八乙女 ユニット名：1 F すみれ				
所在地	(〒 981-3135) 仙台市泉区八乙女中央3丁目9-23				
サービス種別 及び定員等	認知症対応型共同生活介護		定員 計	18 名	
			ユニット数	2	
自己評価作成日	2025年3月4日	評 価 結 果 市町村受理日			

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1階ユニットの理念 1、感謝する心 2、お一人お一人に寄り添う心 3、支え合えるチーム創り 上記を掲げ、入居者様と毎日楽しく過ごしています。 不穏な入居者様がいてもすぐに薬で抑制する事はせずに、チームでその方に合ったケアを検討し、関わりや傾聴の時間を大切にしています。 入居者様に楽しんで頂く為には職員も楽しむという事を忘れずに毎日「一日一笑」を目標に入居者様方の笑顔を引き出せるように様々なレクリエーション、イベント、行事を企画しています。入居者様の毎日が生き活きとメリハリのある生活を送って頂けるよう心がけています。
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階
訪問調査日	2025年3月19日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の理念】

<法人運営理念>

- 1、「利用者様主体のケア」をチームワーク良く行います。
- 2、「地域福祉の向上」をめざすと共に住民としても進んで参加します。
- 3、技術を磨き「介護サービスの向上」を目指します。

<ユニット理念>

●すみれユニット運営理念

- 1、感謝する心
- 2、お一人お一人に寄り添う心
- 3、支え合えるチーム創り

●たんぽぽユニット運営理念

- 1、お互いに助け合う心
- 2、尊重し合えるチーム作り
- 3、皆が笑顔で過ごせる場所

【事業所の概要】母体法人について・立地環境・建物の特徴等

母体法人「コスモスケア株式会社」は2001年に設立され、仙台市を中心に介護事業所を複数運営している。「グループホームコスモス八乙女」は2018年に開所し、2階建て2ユニットのホームである。地下鉄八乙女駅近くの住宅地の中に在り、敷地内には法人本部がある。近くには保育所、コンビニ等があり、利便性の良い場所である。

【事業所の優れている点・工夫点】

①チームワークを大切にしたケアを行っている点

職員は、法人・ユニット理念にある「チーム」を常に意識して、チームワークによるケアを大切に取り組んでいる。

②地域との関係づくりに取り組んでいる点

町内会や地域住民との協力関係も築かれ、日常的に散歩や買い物の時に地域住民と挨拶を交わし馴染みの関係ができています。運営推進会議時に避難訓練を実施し、町内会長から避難訓練の改善点等助言があり、運営に活かしている。

③常勤の看護師が配置されている点

常勤の看護師を配置し、利用者の健康管理、通院介助、毎月のカンファレンス、介護計画作成時などに医療面からの助言を得ている。急変時には医師、看護師と常に医療連携体制がとれるよう、整えられている。

④法人本部との関係が密接な点

敷地内に法人の本部があり、ホームでの困りごとの解決や職員のメンタルヘルスケアの窓口も設けられ、連携しやすい環境である。

V.サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

事業所名	グループホームコスモス八乙女
ユニット名	1 F すみれ

項 目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、やりがいと責任を持って働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 9
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	10
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	11 ～ 15
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	16 ～ 22
V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)	56 ～ 68	

自己評価および外部評価結果（事業所名：グループホームコスモス八乙女）「ユニット名：1F すみれ」

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	現在は昼ミーティング時に理念を唱和し旧友している。職員全員がしっかり意味まで理解して実践できているかは疑問が残る。	法人理念と各ユニット理念を事務室に掲示し、昼のミーテング時に唱和し毎日のケアの実践に努めている。理念は年度末に振り返りを行っている。各理念にある「チーム」を常に意識し、チームワークによるケアを大切に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会と連携し川の土手の草刈を手伝ったり、ご近所やこども園前の雪かきを手伝ったりしている。こども園との合同イベントあり。	町内会に加入しており、散歩や買い物時には地域住民と挨拶を交わしている。職員は住民と一緒に、近隣のこども園や高齢者住宅前などの雪かきを行っている。ハロウィンやクリスマスには、こども園の園児たちが来訪し交流している。歌や体操、傾聴ボランティアの受け入れも行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場で町内会やご家族様、社旗福祉協議会の方々と状況を共有している。また地域の方々に質問や相談を受けた際には都度助言等行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の議事録を回覧し情報共有し、サービスの向上に繋げている。	運営推進会議のメンバーは家族・町内会長・民生委員・地域社協会長・地域包括職員・法人及び事業所の職員が参加し、2ヶ月に1回開催している。全家族に案内している。会議の議事録を職員に回覧し、情報を共有している。家族が、来訪時にホームの玄関先で閲覧できるよう、ファイルを設置している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ状況下では感染状況や予防対策を共有し、指示、助言を受けていた。	地域包括支援センター主催の健康祭りや多職種のネットワーク会議に参加しており、互いに協力し合える体制ができている。感染症など情報や制度改定時の問合せなど、電話連絡やメールで情報交換を行っている。保護課の職員が定期的に利用者の面談に来ている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を3か月に1度開催し、検討シートを用いて不適切ケア～身体拘束への理解を深め実践している。玄関の施錠は防犯上の観点から夜間のみ施錠している。	身体拘束廃止委員会を3ヶ月に1回開催し、年2回研修を行っている。「検討シート」を活用し、事例検討を行い防止に努めている。事業所前の通りは交通量が多いため、利用者が外に出る時は、職員が同行し一緒に散歩している。玄関は日中は施錠せず、センサーとチャイムで対応している。夜間は防犯上21時から翌6時まで施錠している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを使用した研修を年3回実施し、虐待防止委員会を設置。グレーゾーンの対応方法やスピーチロックなど都度その場で指導をしている。	虐待防止マニュアルを用いて、年3回、研修を行いスピーチロックや声のトーンなど、具体的に学んでいる。管理者は職員の不適切な言葉遣いやケアを見かけた際には、都度注意をするが、利用者や他の職員の前では行わないよう配慮している。ミーティング時に事例を話し合い防止に努めている。職員のメンタルヘルスケアは管理者との面談の他に、法人に相談窓口が設けられている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している入居者がいるが、学ぶ機会が少なく理解している職員が少ないと思われる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な時間をかけ、契約書、重要事項説明書に沿って理解、同意を得ている。都度質問や疑問にはわかりやすく答えるように努力し、不安の軽減に取り組んでいる。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アンケートや運営推進会議に出席されたご家族様に意見を伺っている。また、面会に来られた際など要望などを尋ね運営に反映している。	家族会はないが、面会時や電話連絡の際に家族から意見や要望を聞いている。運営推進会議に出席した家族からも意見を聞き、議事録に残し運営に反映している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議にて職員の意見を聞いている。また個別での面談を行い、思いや考えを引き出し聞き取りを行い反映させている。	年2回の面談や全体会議で、職員から意見・要望を聞いている。日常的にも話せるよう配慮し、職場環境を整えている。資格取得のための費用補助もあり、職員にはキャリアアップのための外部研修参加の声かけもしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年目標設定シートを用いて半期ごとに面談を行いキャリアパス制度に反映されている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社で行われる内部研修や、外部研修に積極的に参加し学びを深めている。多様な研修に参加しやすい環境が整っている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナ禍以降、同業者と交流する機会が減っている。以前は他法人が主催するお祭りに参加するなど積極的に交流を図っていた。	同法人の他事業所職員とは研修等で情報交換を行っている。地域包括支援センター主催の多職種とのネットワーク会議に参加し、医療やリハビリ関係など、多職種の職員と情報交流をし、顔なじみになった同業者とも交流をしている。	
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	心配事や不安な気持ちを少しでも軽減できるように、本人様の心に寄り添いながら傾聴している。入居後も定期的にお話を聞く時間を作り、安心して生活を送れるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の不安な気持ちは当然である物として考え、ご家族様の要望に少しでも応えられるよう対応している。定期的に連絡をし、生活の様子を伝えるなど良好な関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実態調査や入居判定会議にて必要または想定されるサービス、課題について検討している。また職員間で情報を共有し都度検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する人、される人という認識はなく、入居者様と共に生活し、その方らしい生活を続けられるようにサポートし、信頼関係の構築に努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームに入居されたからと言って、本人様とご家族様の絆が切れる事のないよう意識し支えられるよう支援している。イベントや行事などへも一緒に参加して頂くよう声掛けしている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や面会などを定期的に行って頂く事で馴染みの関係が途切れないようにしている。また昔の写真などを持ってきていただき、忘れる事がないようにしている。	現在、面会の制限は設けていない。家族や友人の来訪や、電話の取り次ぎ、年賀状などのやり取りなど関係が途切れないよう支援している。訪問理・美容が定期的に来ており、カラーリングを楽しむ人もいる。本人から「家に帰りたい」、「墓参りに行きたい」などの要望が出た時は、家族に報告して叶えられるよう支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性の良い方などを検討し、定期的に席替えなどを行っている。また外出の際の席決めの際にもその方との相性を見ながら決めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用契約が終了した後でも、相談など必要であれば出来る限りのサポート、フォローをさせて頂いている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のミーティングやカンファレンス等でその方それぞれの嗜好や希望に応じた意向を取り入れたうえで、本人本位で検討している。	家族からは本人の生活歴・習慣・好きなこと等を聞いている。居室や入浴時にゆっくりと思いや希望を聞き、介護記録に記入しミーティングやカンファレンス時に情報を共有している。思いを伝えられない人からも、声がけ時の表情や仕草からできるだけ思いを汲み取るよう努めている。YouTubeで好きなプロレスを観て楽しんでいる人もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活の様子や環境を聞き取り、できるだけ現在の生活をそのまま続けられるよう、情報を把握し実現を目指している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人おひとりにあった生活リズムを優先し、本人様のニーズに沿って生活が遅れるように現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族様、職員、主治医と密に連携を図り、本人様が今何を思っているのかを考え、話し合いを行い、本人様にとって最善であると思われる計画書を作成している。	カンファレンスでは、利用者の状態の変化など居室担当者から意見を聞き、家族の要望や医師・看護師から医療面での助言を得て、介護計画を作成している。介護計画は6ヶ月に1回、見直しを行っている。家族には面会時や電話で説明し同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や業務日誌等を使用し随時気づきや変化等を記録に残し情報共有している。カンファレンス等でまとめた情報を介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々本人様の様子やご家族様の要望を参考に多様な可能性を考え、常にその方にあったサービスを提供できるように様々なサービスや支援方法を模索し取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩コースをある程度決め、近隣の公園や神社を把握し外出で無理のない楽しみ方ができるように場所を選定している。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に往診主治医と連携を図っているが、都度本人及び家族の希望を聞き、受信時の同行や必要時の電話相談など実施している。	かかりつけ医は入居時に希望にそって決めている。月2回、協力医療機関の訪問診療がある。内科以外の通院は看護師が同行し受診している。協力医以外のかかりつけ医を受診する際は、基本家族付き添いで通院し、利用者の状態を書面にし提供している。訪問歯科は必要時に診療してくれる。常勤の看護師がおり、利用者の健康管理、通院同行、毎月のカンファレンス、計画作成時にも医療面から助言を得て反映している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の正看護師が配置しており、毎日の体調観察を行っている。特変時に迅速に対応できるように都度情報共有し、適切な対応を図れるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	管理者や看護師が密に連携を図り、最新の情報を職員間で共有している。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	担当医師と連携を図り、ターミナル期へ移行となった場合、今後の要望等をご家族様と相談し、職員にも情報共有のもとチームとして支援している。	入居時に「看取りに関する指針」を基に説明している。医師が重度化したと判断した時に、改めて医師から家族に説明し同意を得てから「看取り介護計画書」を作成し『チーム』で体制を作り支援している。看取り時は、家族が宿泊できるようにしている。看取り後は振り返りを行い、本部の職員も参加し、職員のグリーフケアを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変対応マニュアルや事故発生マニュアルを掲示し即座に対応できるようにしている。年間研修計画にも組み込み、職員全員が的確に実践できるようにしている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っている。日中想定、夜間想定での訓練を行い、流れの確認をしている。運営推進会議の際に避難訓練を行い、総括をお願いし助言を頂きながら実施している。	火災・風水害・地震対応マニュアルを作成している。年2回、避難訓練を行い、垂直移動避難も行った。避難訓練は運営推進会議時に合わせて行い、メンバーから助言等を得て改善に繋げている。設備点検は年2回業者が行っている。災害対策強化のため自家用発電機を設けている。食料等、備畜品は3日分保管している。感染症対策として検温・手洗い・うがいを現在も徹底している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方らしい生活を続けていくため、本人の意思を尊重しできるだけ希望に沿った対応をしている。相手の立場になって誇りやプライバシーを損ねないよう対応している。	年1回、接遇やプライバシー保護の研修を行っている。呼び名は、基本苗字か名前に「さん」を付けているが、入居時に聞いて馴染みの呼び方に合わせる場合もある。トイレへの誘導時は周りに気づかれないよう小声でさりげなく行っている。居室は利用者の自宅であり、入室する際は必ず確認している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から生活の中で選択肢のある声掛けを行い、自己決定して頂けるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人ひとりの意向を尋ね、出来るだけ本人様なりのペースで過ごして頂けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの際に自身で洋服を選んで頂けるよう声掛けを行っている。身だしなみやおしゃれが楽しめるように工夫している。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好きな・嫌いな食べ物を聞き取り張り出し周知している。準備や片づけのお手伝いも入居者様に依頼し職員とともにしている。	毎月、法人の管理栄養士が栄養指導を行っている。職員による食事委員会があり、行事食などを企画している。誕生日には好きな物を聞き、回転ずしを食べに出かけたり、ケーキを用意しお祝いしている。利用者は職員と一緒に盛り付けや洗い物、皿拭きなど、できることを手伝っている。プランターで育てたミニトマト等も収穫し食事に取り入れて楽しんでいる。YouTubeで誤嚥防止の動画を流し、口腔体操を行っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様の状態に合わせ食事形態や提供量を見直し、食に楽しみを持って頂けるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後に一人ひとりに合った口腔ケア方法で清潔保持できるように支援している。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排尿量や排泄パターンを見直し、定時にトイレ誘導している。	チェックシートを活用し、一人ひとりの状態を確認している。排泄パターンを把握し、声がけ誘導をしながらトイレで排泄ができるよう支援している。夜間は、睡眠を重視する人には大きめのパッドを使用したり、居室にポータブルトイレを用意する場合もある。転倒防止のため、ベッドに離床センサーを使用している人もいる。便秘対策として乳製品やオリゴ糖を取り入れたり、体操を行っている。看護師に相談し、医師から処方された薬を服用する人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操の際に腹部をねじったり動かしたりする動作を取り入れ、便秘の方はトイレ時腹部マッサージを行ったり、ウォッシュレットで肛門刺激を行っている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴時、お湯の温度や時間を入居者様一人ひとりの意向に合わせて対応している。寝る前など夜を希望される方もおられるが、人員から安全を考えると難しい。	週2回以上の入浴支援を行い、希望に合わせて夕食後に入る人もいる。リフト浴もあり、安全に入れる環境を整えている。湯温は一人ひとりの好みにし、季節に合わせて柚子・菖蒲湯なども楽しんだり、壁に飾りつけするなど、気持ちよく入浴できるよう工夫している。皮膚の乾燥状態に合わせ、入浴後に肌ケアを行う場合もある。入りたいがらない人には、無理強いせず時間や日を替えたりしている。シャンプーなども好みに合わせ用意している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の生活習慣に寄り添い、居心地の良い空間作り(馴染みの家具等を設置)で安心、安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師や薬剤師と連携し各入居者様の服薬内容の説明を受け、変更等あった際も情報が滞らないようユニット全体で共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	昔からの趣味や好きだった事を継続できるように一人ひとりに合った気分転換できる事を模索し、取り組んでいる。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	初詣や遠足等の外出イベントの実施。地域交流の場へ参加。町内と連携し、近隣の散策なども実施している。	年間計画を作成し、季節ごとに車いすの人も一緒にドライブを楽しむなど、外出の機会を設けている。日常的には、天気の良い日に近くの川沿いなどを散歩し、近隣住民と挨拶を交わしている。近くにあるホテルのクリスマスツリーを見学しに行ったこともある。家族と通院時にドライブや外食を楽しむ人もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別の買い物の際や外出の際など職員と一緒に小遣いから現金を払う事ができるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様やご家族様が希望された際に随時、連絡が取りあえるように支援している。ご家族様からの連絡がしばらくない場合は入居者様の気持ちを考慮し、ホーム側から電話をかける事あり。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節にあった装飾物などを壁に貼り、季節感を出せるように工夫している。また温度や照明などを調整し、暖かみのある色、リラックス出来るような音楽をかけ居心地よく生活できるよう工夫している。	リビングは広く、窓から日差しが入り明るく、開放感がある。壁には利用者が職員と一緒に手作りした季節の飾り付けや行事の写真が飾られている。日中は静かに音楽をかけたり、テレビでは花々や景色の画面が映されている。昼食後もみんなで楽しくリビングで過ごしている。温・湿度、換気は職員が定期的に管理している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや一人掛けの椅子をリビングから離れた空間に設置し思い通りに過ごして頂けるよう配慮している。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔から使用している馴染みの物を持ち込んで頂き、暖かみのある空間を作り、居心地良く生活を送れるよう工夫している。	居室には、エアコン・照明・カーテンが設置されている。ベッドは基本持ち込みだが、希望があればホームで用意している。利用者は自宅から馴染みの家具などを持ち込み、好きな小物を飾るなど居心地のよい居室にしている。ベッドや家具の配置は、動線を確認し本人と家族で相談している。温・湿度管理や換気、掃除は職員が行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存機能を見極め、出来ない事ではなく出来る事を探し、継続できるようにサポートしている。本人様が残っている能力はまだまだあるはず。分かりやすい声掛けと掲示物(トイレやお風呂の案内表示等)を表示している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495500480	事業の開始年月日	2018年4月1日	
		指 定 年 月 日	2018年4月1日	
法人名	コスモスケア株式会社			
事業所名	グループホームコスモス八乙女			
	ユニット名：2F たんぽぽ			
所在地	(〒 981-3135)			
	仙台市泉区八乙女中央3丁目9-23			
サービス種別 及び定員等	認知症対応型共同生活介護		定員 計	18 名
			ユニット数	2
自己評価作成日	2025年3月4日	評価結果 市町村受理日		

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

2階ユニットの理念 1、お互いに助け合う心 2、尊重し合えるチーム作り 3、皆が笑顔で過ごせる場所 上記を掲げ、入居者様と毎日を楽しく過ごしています。 不穏な入居者様がいてもすぐに薬で抑制する事はせずに、チームでその方に合ったケアを検討し、関わりや傾聴の時間を大切にしています。 入居者様に楽しんで頂く為には職員も楽しむという事を忘れずに毎日「一日一笑」を目標に入居者様方の笑顔を引き出せるように様々なレクリエーション、イベント、行事を企画しています。入居者様の毎日が生き活きとメリハリのある生活を送って頂けるよう心がけています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階
訪問調査日	2025年3月19日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の理念】

<法人運営理念>

- 1、「利用者様主体のケア」をチームワーク良く行います。
- 2、「地域福祉の向上」をめざすと共に住民としても進んで参加します。
- 3、技術を磨き「介護サービスの向上」を目指します。

<ユニット理念>

●すみれユニット運営理念

- 1、感謝する心
- 2、お一人お一人に寄り添う心
- 3、支え合えるチーム創り

●たんぽぽユニット運営理念

- 1、お互いに助け合う心
- 2、尊重し合えるチーム作り
- 3、皆が笑顔で過ごせる場所

【事業所の概要】母体法人について・立地環境・建物の特徴等

母体法人「コスモスケア株式会社」は2001年に設立され、仙台市を中心に介護事業所を複数運営している。「グループホームコスモス八乙女」は2018年に開所し、2階建て2ユニットのホームである。地下鉄八乙女駅近くの住宅地の中に在り、敷地内には法人本部がある。近くには保育所、コンビニ等があり、利便性の良い場所である。

【事業所の優れている点・工夫点】

①チームワークを大切にしたケアを行っている点

職員は、法人・ユニット理念にある「チーム」を常に意識して、チームワークによるケアを大切に取り組んでいる。

②地域との関係づくりに取り組んでいる点

町内会や地域住民との協力関係も築かれ、日常的に散歩や買い物の時に地域住民と挨拶を交わし馴染みの関係ができています。運営推進会議時に避難訓練を実施し、町内会長から避難訓練の改善点等助言があり、運営に活かしている。

③常勤の看護師が配置されている点

常勤の看護師を配置し、利用者の健康管理、通院介助、毎月のカンファレンス、介護計画作成時などに医療面からの助言を得ている。急変時には医師、看護師と常に医療連携体制がとれるよう、整えられている。

④法人本部との関係が密接な点

敷地内に法人の本部があり、ホームでの困りごとの解決や職員のメンタルヘルスケアの窓口も設けられ、連携しやすい環境である。

V.サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

事業所名	グループホームコスモス八乙女
ユニット名	2 F たんぽぽ

項 目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 9
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	10
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	11 ～ 15
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	16 ～ 22
V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)	56 ～ 68	

自己評価および外部評価結果（事業所名：グループホームコスモス八乙女）「ユニット名：2F たんぽぽ」

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	現在は昼ミーティング時に理念を唱和し旧友している。職員全員がしっかり意味まで理解して実践できているかは疑問が残る。	法人理念と各ユニット理念を事務室に掲示し、昼のミーテング時に唱和し毎日のケアの実践に努めている。理念は年度末に振り返りを行っている。各理念にある「チーム」を常に意識し、チームワークによるケアを大切に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会と連携し川の土手の草刈を手伝ったり、ご近所やこども園前の雪かきを手伝ったりしている。こども園との合同イベントあり。	町内会に加入しており、散歩や買い物時には地域住民と挨拶を交わしている。職員は住民と一緒に、近隣のこども園や高齢者住宅前などの雪かきを行っている。ハロウィンやクリスマスには、こども園の園児たちが来訪し交流している。歌や体操、傾聴ボランティアの受け入れも行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場で町内会やご家族様、社旗福祉協議会の方々と状況を共有している。また地域の方々に質問や相談を受けた際には都度助言等行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の議事録を回覧し情報共有し、サービスの向上に繋げている。	運営推進会議のメンバーは家族・町内会長・民生委員・地域社協会長・地域包括職員・法人及び事業所の職員が参加し、2ヶ月に1回開催している。全家族に案内している。会議の議事録を職員に回覧し、情報を共有している。家族が、来訪時にホームの玄関先で閲覧できるよう、ファイルを設置している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ状況下では感染状況や予防対策を共有し、指示、助言を受けていた。	地域包括支援センター主催の健康祭りや多職種のネットワーク会議に参加しており、互いに協力し合える体制ができている。感染症など情報や制度改定時の問合せなど、電話連絡やメールで情報交換を行っている。保護課の職員が定期的に利用者の面談に来ている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を3か月に1度開催し、検討シートを用いて不適切ケア～身体拘束への理解を深め実践している。玄関の施錠は防犯上の観点から夜間のみ施錠している。	身体拘束廃止委員会を3ヶ月に1回開催し、年2回研修を行っている。「検討シート」を活用し、事例検討を行い防止に努めている。事業所前の通りは交通量が多いため、利用者が外に出る時は、職員が同行し一緒に散歩している。玄関は日中は施錠せず、センサーとチャイムで対応している。夜間は防犯上21時から翌6時まで施錠している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを使用した研修を年3回実施し、虐待防止委員会を設置。グレーゾンの対応方法やスピーチロックなど都度その場で指導をしている。	虐待防止マニュアルを用いて、年3回、研修を行いスピーチロックや声のトーンなど、具体的に学んでいる。管理者は職員の不適切な言葉遣いやケアを見かけた際には、都度注意をするが、利用者や他の職員の前では行わないよう配慮している。ミーティング時に事例を話し合い防止に努めている。職員のメンタルヘルスケアは管理者との面談の他に、法人に相談窓口が設けられている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している入居者がいるが、学ぶ機会が少なく理解している職員が少ないと思われる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な時間をかけ、契約書、重要事項説明書に沿って理解、同意を得ている。都度質問や疑問にはわかりやすく答えるように努力し、不安の軽減に取り組んでいる。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アンケートや運営推進会議に出席されたご家族様に意見を伺っている。また、面会に来られた際など要望などを尋ね運営に反映している。	家族会はないが、面会時や電話連絡の際に家族から意見や要望を聞いている。運営推進会議に出席した家族からも意見を聞き、議事録に残し運営に反映している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議にて職員の意見を聞いている。また個別での面談を行い、思いや考えを引き出し聞き取りを行い反映させている。	年2回の面談や全体会議で、職員から意見・要望を聞いている。日常的にも話せるよう配慮し、職場環境を整えている。資格取得のための費用補助もあり、職員にはキャリアアップのための外部研修参加の声かけもしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年目標設定シートを用いて半期ごとに面談を行いキャリアパス制度に反映されている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社で行われる内部研修や、外部研修に積極的に参加し学びを深めている。多様な研修に参加しやすい環境が整っている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナ禍以降、同業者と交流する機会が減っている。以前は他法人が主催するお祭りに参加するなど積極的に交流を図っていた。	同法人の他事業所職員とは研修等で情報交換を行っている。地域包括支援センター主催の多職種とのネットワーク会議に参加し、医療やリハビリ関係など、多職種の職員と情報交流をし、顔なじみになった同業者とも交流をしている。	
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	心配事や不安な気持ちを少しでも軽減できるように、本人様の心に寄り添いながら傾聴している。入居後も定期的にお話を聞く時間を作り、安心して生活を送れるように支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の不安な気持ちは当然である物として考え、ご家族様の要望に少しでも応えられるよう対応している。定期的に連絡をし、生活の様子を伝えるなど良好な関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実態調査や入居判定会議にて必要または想定されるサービス、課題について検討している。また職員間で情報を共有し都度検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する人、される人という認識はなく、入居者様と共に生活し、その方らしい生活を続けられるようにサポートし、信頼関係の構築に努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームに入居されたからと言って、本人様とご家族様の絆が切れる事のないよう意識し支えられるよう支援している。イベントや行事などへも一緒に参加して頂くよう声掛けしている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や面会などを定期的に行って頂く事で馴染みの関係が途切れないようにしている。また昔の写真などを持ってきていただき、忘れる事がないようにしている。	現在、面会の制限は設けていない。家族や友人の来訪や、電話の取り次ぎ、年賀状などのやり取りなど関係が途切れないよう支援している。訪問理・美容が定期的に来ており、カラーリングを楽しむ人もいる。本人から「家に帰りたい」、「墓参りに行きたい」などの要望が出た時は、家族に報告して叶えられるよう支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性の良い方などを検討し、定期的に席替えなどを行っている。また外出の際の席決めの際にもその方との相性を見ながら決めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用契約が終了した後も、相談など必要であれば出来る限りのサポート、フォローをさせて頂いている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のミーティングやカンファレンス等でその方それぞれの嗜好や希望に応じた意向を取り入れたうえで、本人本位で検討している。	家族からは本人の生活歴・習慣・好きなこと等を聞いている。居室や入浴時にゆっくりと思いや希望を聞き、介護記録に記入しミーティングやカンファレンス時に情報を共有している。思いを伝えられない人からも、声がけ時の表情や仕草からできるだけ思いを汲み取るよう努めている。YouTubeで好きなプロレスを観て楽しんでいる人もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活の様子や環境を聞き取り、できるだけ現在の生活をそのまま続けられるよう、情報を把握し実現を目指している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人おひとりにあった生活リズムを優先し、本人様のニーズに沿って生活が遅れるように現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族様、職員、主治医と密に連携を図り、本人様が今何を思っているのかを考え、話し合いを行い、本人様にとって最善であると思われる計画書を作成している。	カンファレンスでは、利用者の状態の変化など居室担当者から意見を聞き、家族の要望や医師・看護師から医療面での助言を得て、介護計画を作成している。介護計画は6ヶ月に1回、見直しを行っている。家族には面会時や電話で説明し同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や業務日誌等を使用し随時気づきや変化等を記録に残し情報共有している。カンファレンス等でまとめた情報を介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々本人様の様子やご家族様の要望を参考に多様な可能性を考え、常にその方にあったサービスを提供できるように様々なサービスや支援方法を模索し取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩コースをある程度決め、近隣の公園や神社を把握し外出で無理のない楽しみ方ができるように場所を選定している。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に往診主治医と連携を図っているが、都度本人及び家族の希望を聞き、受信時の同行や必要時の電話相談など実施している。	かかりつけ医は入居時に希望にそって決めている。月2回、協力医療機関の訪問診療がある。内科以外の通院は看護師が同行し受診している。協力医以外のかかりつけ医を受診する際は、基本家族付き添いで通院し、利用者の状態を書面にし提供している。訪問歯科は必要時に診療してくれる。常勤の看護師がおり、利用者の健康管理、通院同行、毎月のカンファレンス、計画作成時にも医療面から助言を得て反映している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の正看護師が配置しており、毎日の体調観察を行っている。特変時に迅速に対応できるように都度情報共有し、適切な対応を図れるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	管理者や看護師が密に連携を図り、最新の情報を職員間で共有している。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	担当医師と連携を図り、ターミナル期へ移行となった場合、今後の要望等をご家族様と相談し、職員にも情報共有のもとチームとして支援している。	入居時に「看取りに関する指針」を基に説明している。医師が重度化したと判断した時に、改めて医師から家族に説明し同意を得てから「看取り介護計画書」を作成し『チーム』で体制を作り支援している。看取り時は、家族が宿泊できるようにしている。看取り後は振り返りを行い、本部の職員も参加し、職員のグリーフケアを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変対応マニュアルや事故発生マニュアルを掲示し即座に対応できるようにしている。年間研修計画にも組み込み、職員全員が的確に実践できるようにしている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っている。日中想定、夜間想定での訓練を行い、流れの確認をしている。運営推進会議の際に避難訓練を行い、総括をお願いし助言を頂きながら実施している。	火災・風水害・地震対応マニュアルを作成している。年2回、避難訓練を行い、垂直移動避難も行った。避難訓練は運営推進会議時に合わせて行い、メンバーから助言等を得て改善に繋げている。設備点検は年2回業者が行っている。災害対策強化のため自家用発電機を設けている。食料等、備畜品は3日分保管している。感染症対策として検温・手洗い・うがいを現在も徹底している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(16)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方らしい生活を続けていくため、本人の意思を尊重しできるだけ希望に沿った対応をしている。相手の立場になって誇りやプライバシーを損ねないよう対応している。	年1回、接遇やプライバシー保護の研修を行っている。呼び名は、基本苗字か名前に「さん」を付けているが、入居時に聞いて馴染みの呼び方に合わせる場合もある。トイレへの誘導時は周りに気づかれないよう小声でさりげなく行っている。居室は利用者の自宅であり、入室する際は必ず確認している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から生活の中で選択肢のある声掛けを行い、自己決定して頂けるよう働きかけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人ひとりの意向を尋ね、出来るだけ本人様なりのペースで過ごして頂けるよう支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの際に自身で洋服を選んで頂けるよう声掛けを行っている。身だしなみやおしゃれが楽しめるように工夫している。			
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好きな・嫌いな食べ物を聞き取り張り出し周知している。準備や片づけのお手伝いも入居者様に依頼し職員とともにやっている。	毎月、法人の管理栄養士が栄養指導を行っている。職員による食事委員会があり、行事食などを企画している。誕生日には好きな物を聞き、回転ずしを食べに出かけたり、ケーキを用意しお祝いしている。利用者は職員と一緒に盛り付けや洗い物、皿拭きなど、できることを手伝っている。プランターで育てたミニトマト等も収穫し食事に取り入れて楽しんでいる。YouTubeで誤嚥防止の動画を流し、口腔体操を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様の状態に合わせ食事形態や提供量を見直し、食に楽しみを持って頂けるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後に一人ひとりに合った口腔ケア方法で清潔保持できるように支援している。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排尿量や排泄パターンを見直し、定時にトイレ誘導している。	チェックシートを活用し、一人ひとりの状態を確認している。排泄パターンを把握し、声かけ誘導をしながらトイレで排泄ができるよう支援している。夜間は、睡眠を重視する人には大きめのパッドを使用したり、居室にポータブルトイレを用意する場合もある。転倒防止のため、ベッドに離床センサーを使用している人もいる。便秘対策として乳製品やオリゴ糖を取り入れたり、体操を行っている。看護師に相談し、医師から処方された薬を服用する人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操の際に腹部をねじったり動かしたりする動作を取り入れ、便秘の方はトイレ時腹部マッサージを行ったり、ウォッシュレットで肛門刺激を行っている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴時、お湯の温度や時間を入居者様一人ひとりの意向に合わせて対応している。寝る前など夜を希望される方もおられるが、人員から安全を考えると難しい。	週2回以上の入浴支援を行い、希望に合わせて夕食後に入る人もいる。リフト浴もあり、安全に入れる環境を整えている。湯温は一人ひとりの好みにし、季節に合わせて柚子・菖蒲湯なども楽しんだり、壁に飾りつけするなど、気持ちよく入浴できるよう工夫している。皮膚の乾燥状態に合わせ、入浴後に肌ケアを行う場合もある。入りたいがらない人には、無理強いせず時間や日を替えたりしている。シャンプーなども好みに合わせて用意している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の生活習慣に寄り添い、居心地の良い空間作り(馴染みの家具等を設置)で安心、安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師や薬剤師と連携し各入居者様の服薬内容の説明を受け、変更等あった際も情報が滞らないようユニット全体で共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	昔からの趣味や好きだった事を継続できるように一人ひとりに合った気分転換できる事を模索し、取り組んでいる。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	初詣や遠足等の外出イベントの実施。地域交流の場へ参加。町内と連携し、近隣の散策なども実施している。	年間計画を作成し、季節ごとに車いすの人も一緒にドライブを楽しむなど、外出の機会を設けている。日常的には、天気の良い日に近くの川沿いなどを散歩し、近隣住民と挨拶を交わしている。近くにあるホテルのクリスマスツリーを見学しに行ったこともある。家族と通院時にドライブや外食を楽しむ人もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別の買い物の際や外出の際など職員と一緒に小遣いから現金を払う事ができるように支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様やご家族様が希望された際に随時、連絡が取りあえるように支援している。ご家族様からの連絡がしばらくない場合は入居者様の気持ちを考慮し、ホーム側から電話をかける事あり。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節にあった装飾物などを壁に貼り、季節感を出せるように工夫している。また温度や照明などを調整し、暖かみのある色、リラックス出来るような音楽をかけ居心地よく生活できるよう工夫している。	リビングは広く、窓から日差しが入り明るく、開放感がある。壁には利用者が職員と一緒に手作りの季節の飾り付けや行事の写真が飾られている。日中は静かに音楽をかけたり、テレビでは花々や景色の画面が映されている。昼食後もみんなで楽しくリビングで過ごしている。温・湿度、換気は職員が定期的に管理している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや一人掛けの椅子をリビングから離れた空間に設置し思い通りに過ごして頂けるよう配慮している。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔から使用している馴染みの物を持ち込んで頂き、暖かみのある空間を作り、居心地良く生活を送れるよう工夫している。	居室には、エアコン・照明・カーテンが設置されている。ベッドは基本持ち込みだが、希望があればホームで用意している。利用者は自宅から馴染みの家具などを持ち込み、好きな小物を飾るなど居心地のよい居室にしている。ベッドや家具の配置は、動線を確認し本人と家族で相談している。温・湿度管理や換気、掃除は職員が行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存機能を見極め、出来ない事ではなく出来る事を探し、継続できるようにサポートしている。本人様が残っている能力はまだまだあるはず。分かりやすい声掛けと掲示物（トイレやお風呂の案内表示等）を表示している。		